

研究内容の説明文

説明用課題名※ (括弧内は申請課題名)	ウイルス性肝炎の制御に資する全国疫学研究 — 初回献血者における B 型・C 型肝炎ウイルス感染状況 — ((全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎 elimination に向けた方策の確立に資する疫学研究 (初回献血者における HBs 抗原陽性者・HCV 抗体陽性者))
研究期間	2024 年 2 月～2028 年 3 月
研究機関名	広島大学大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学
研究責任者職氏名	教授 田中純子

※献血者に対しても理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

これは、国の肝炎等克服政策研究事業として、厚生労働科学研究費補助金により行う研究事業です。厚生労働省は、国民病の一つともいえる肝炎の撲滅を目指して肝炎総合対策を推進しています。その基礎資料として、国民の B 型肝炎ウイルス (HBV)、C 型肝炎ウイルス (HCV) の感染率のデータは必須です。

日本赤十字社血液センターには 1 年間に約 500 万人の方が献血しており、その血液についてはすべて HBV と HCV の詳しい検査をしています。他では得られないその膨大な検査結果を統計解析することにより、国民の肝炎ウイルスの感染の実態がわかります。特に、無症状で自覚のない感染者集団の大きさと分布がわかります。さらに初回献血者集団での HBsAg、anti-HBs、anti-HBc、anti-HCV 等の陽性率を精査することにより、HBV 持続感染者数、HBV 既往感染者数、HBV ワクチン接種者数、HCV 感染者数等のデータが得られます。また、持続感染者、感染既往者、検診の必要な人口、加療の必要な人口、それらの地理的・年齢的分布が推定されます。またこれまで蓄積されてきた同様の献血者データの変化から、過去の肝炎政策の効果、向後の感染率の推移などを推定することができます。

2 使用する献血者の試料と情報の項目

献血者の情報： 2021 年から 2026 年までの 1 年間ごとの、都道府県別・性別・出生年別の初回献血者数、またその中の HBs 抗原陽性者数、HBc 抗体陽性者数、HBs 抗体陽性者数、HCV 抗体陽性者数。

3 共同研究機関及びその研究責任者氏名

《献血血液等を使用する共同研究機関》

該当なし

《献血血液等を使用しない共同研究機関》

該当なし

4 献血血液等を利用又は提供を開始する予定日

2026 年 6 月 12 日

5 方法《献血者の試料・情報の使用目的・使用方法含む》

上記 2 に示した献血血液の HBV と HCV に関する検査データを、日本赤十字社の献血データベースより抽出し、広島大学の主任研究者に送付し、慢性感染者、感染既往者、検診・精査・加療の必要なそれぞれの人口とそれらの地理的・年齢的分布を調べます。本研究では、HBV と HCV の陽性率を一般集団に近い形で評価するため、過去の献血時の検査結果通知による選別の影響を受けにくい初回献血者のみのデータを対象とします。

6 研究の対象とされることへの拒否について

当研究においては、抽出・統計処理された数字のみを扱い、献血者の個人情報に触れることは全くありませんが、ご自分のデータをそれらの数字に含めないでほしいと思われる方は、2026 年 12 月 31 日までにご連絡いただければ、統計から除くことができます。ただし集計済のデータから除外することが難しい場合もありますのでご了承ください。

7 上記 6 を受け付ける方法

下記の連絡問い合わせ先までお問い合わせご連絡ください。

所属	日本赤十字社 血液事業本部 中央血液研究所 感染症解析部
担当者	部長 坂田秀勝
電話	03-5534-7522
Mail	h-sakata@jrc.or.jp